

1. 衛生環境研究所の組織・業務

当研究所は、総務課、企画調整室、保健衛生室、食品衛生室、水環境室、環境化学室、大気・地球環境室の1課6室体制をとり、県民に開かれた研究所を目指すとともに、当県の衛生・環境分野での科学的・技術的中核機関として調査研究、試験検査、研修指導、情報収集・提供などの業務を行っている。

当研究所の組織、調査研究及び試験検査等の概要は組織構成図のとおりである。

2. 企画調整室

(1) 調査研究の充実と情報発信

県民に役立つ調査研究を目指して、調査研究の計画段階のものや終了したあとの成果を、有識者や専門家に評価していただく外部評価制度を実施している。

また、ホームページ、新聞等により広く県民に調査研究の成果や環境・感染症などの情報を提供するとともに、要望に応じて出前講座を行っている。

(2) 環境学習・活動支援

当研究所の技術的ノウハウを活かして、要望に応じて小中学校に出向き、環境学習を行う他、学校や各種団体が行う環境活動の支援を行っている。

また、当研究所の施設設備は、環境に配慮したものとなっていることから、施設見学の受入・対応を行っている。

3. 保健衛生室

(1) 調査研究

「鳥由来の人畜共通感染症に関する疫学調査」鳥が関与する人畜共通感染症（ウエストナイル熱・鳥インフルエンザ等）の原因ウイルスについて、早期の検出に役立てることを目的に、水際の侵入監視等の調査を行っている。

【最近の主な調査研究の成果】

「カラス及び蚊のウエストナイル保有状況調査（H19年度）」県内の感染リスクの高い地域に生息する蚊を捕集・分類し、ウエストナイルウイルスの保有状況を調査すると共に、感受性の高いカラスの保有状況も併せて調査した。その結果、すべてのカラス臓器及び蚊において検出されなかった。また、フ

ラビウイルス及び日本脳炎ウイルスについても検索したが、検出されなかった。

(2) 行政検査

行政機関等の依頼により、感染症、食中毒の検査を行っている。

- ①食中毒の原因となる細菌やウイルスの検査
- ②O157、結核菌、ノロウイルス等の感染症の検査
- ③HIV、クラミジアなどの性感染症の血液中の抗体検査
- ④イワガキのノロウイルス検査など

4. 食品衛生室

(1) 調査研究

「輸入健康食品中の有害物質に関する調査」県内で販売されている輸入健康食品を対象とし、健康志向で注目されている健康食品中の残留農薬等の有害物質に関する実態調査などを行っている。

【最近の主な調査研究の成果】

「食品中の化学物質の一斉分析法の検討及び検索システムの構築（H.18～20年度）」健康危機事例発生時において迅速な原因物質の究明を行うため、中国地方4県が連携して、高速液体クロマトグラフ質量分析計MS/MSスペクトルデータベースの作成などを行っている。

(2) 行政検査

行政機関等の依頼により、食品の化学物質に関する検査を行っている。

- ①食品の指定外添加物検査
- ②食品残留農薬、動物用医薬品検査
- ③イワガキの貝毒調査など

5. 水環境室

(1) 調査研究

「アマモとサルボウを用いた中海の水質浄化に関する研究」中海において水草（コアマモ）と二枚貝（サルボウ）による生態系機能を回復させ、水質浄化、漁場改善等に繋げるための調査研究などを行っている。

【最近の主な調査研究の成果】

「アマモとサルボウを用いた中海の水質浄化に関

する研究（H.19～20年度）」中海のシンボルの存在であったコアマモの生育制限要因を解明し、再生適地を判定した上で種子生産と現地移植実験を行った。主な成果は中海再生活動に還元した。

(2) 行政検査

- 行政機関等の依頼により、事業場排水、公共用水域等の検査を行っている。
- ①事業場、処分場排水の検査
 - ②公共用水域等の常時監視の検査など

6. 環境化学室

(1) 調査研究

「廃菌床の有効利用に関する研究」きのこ菌床栽培から大量に発生する廃菌床を原料として、エタノール及びL-乳酸の製造技術を開発することを目指して研究等を行っている。

【最近の主な調査研究の成果】

「発泡ガラスの製造方法に関する特許（特開 2005-132714）」一般家庭から排出された廃ガラスから製造された発泡ガラスは、従来の製造方法だとヒ素、六価クロムなどの重金属の溶出が認められた。本特許は、その重金属の溶出を抑制し、自然環境に安全なガラス発泡体を製造する技術を開発した。

(2) 行政検査

行政機関等の依頼により、処分場排水、廃棄物の安全性評価に関する検査を行っている。

- ①事業場、処分場排水等に含まれる有害物質の検査
- ②廃棄物の安全性の評価試験（溶出試験）など

7. 大気・地球環境室

(1) 調査研究

「黄砂と微小粒子状物質の実態把握に関する調査研究」黄砂と微小粒子状物質に関する科学的なデータを把握し、県民への健康影響、被害予防のための知見を得るために、調査などを行っている。

【最近の主な調査研究の成果】

「鳥取県に飛来する黄砂の実態解明に関する調査・研究（H.17～19）」黄砂観測日には、粉じん量が増加し、成分を分析するとAl、Feなど土壤に由来すると思われる金属が非黄砂日に比べて増加することが分かった。また、 SO_4^{2-} や NH_4^+ など、土壤由来とは考えにくい汚染物質が検出された場合もあった。

(2) 行政検査

- 行政機関等の依頼により、大気汚染状態等の監視・調査を行っている。
- ①ばい煙発生施設の調査
 - ②大気汚染常時監視調査
 - ③自動車排ガス調査
 - ④航空機騒音調査
 - ⑤石綿飛散防止対策調査
 - ⑥酸性雨調査
 - ⑦環境放射能調査など

